

# Diplomate

書式 B ( 症例内容 ) 【記入例】

受験者氏名 \_\_\_\_\_

症例番号	患者仁ナル	性別	年齢	初診日	主訴
1	K . N .	M	53	2000 年 7 月 7 日	咀嚼障害
インプラント施術部位		埋入部位		歯の欠損様式 ( 該当するものに 印を )	
U L M		567		単独・中間歯・遊離端・無歯顎・その他	
インプラント体埋入手術日		併用手術内容		埋入本数	手術時間
2000 年 8 月 8 日		SL		4	2 時間
併用麻酔 ( 該当するものに 印を )				上部構造物種類	上部構造物装着日
Sedation ( I V or G ) ・ General Anesthesia				M B	2001 年 3 月 3 日

## 症例の概要

初診時の状況、検査内容、治療計画、手術記録及び経過、上部構造物、メンテナンス、経過、考察について記載する。

患者は、2000 年 7 月 7 日に上顎右側 5 6 7 欠損にて、咀嚼障害を訴え来院した。数ヵ月前に某歯科にて義歯を作成するも、違和感強く装着できず。初診時残存歯の診査の結果、軽度の歯周疾患を認めるも口腔粘膜、顎関節部には異常は認めなかった。パノラマエックス線写真において欠損部位の歯槽骨には問題ないものの、上顎洞底が近接しており、垂直的骨量不足が推測された。患者は、歯科インプラント治療による補綴処置を希望した。そのため、義歯による補綴処置との違い、およびインプラント治療によるリスク、メンテナンスの重要性等の説明を十分に行い、インフォームドコンセントを得ることができた。

血液検査を行い全身的な疾患のチェックおよび骨塩量の計測を行った。また、診断用ステントを作成し、それを装着した状態で、CT 撮影を行い骨量の評価を行った。インプラント体埋入予定部位には垂直的に 5 mm 程度の骨量しか認められなかった。そのため、上顎洞底挙上術が必要であること、同部位に自家骨を下顎肢前縁部より採取し移植すること、さらには、それらの手術による障害および偶発症等について説明を行い、同意を得ることができた。また、手術は 2 時間ほどにおよぶことと手術部位が上顎洞と下顎肢部であることで静脈内鎮静法を併用して手術を行う事の説明とそのことに関する詳細な説明を行い、同意を得た。

2000 年 7 月 30 日に残存歯の歯周疾患の初期治療が終了したことで、手術日を 8 月 8 日決定した。

# Diplomate

書式 B ( 症例内容 )

受験者氏名 \_\_\_\_\_

症例番号	患者イナル	性別	年齢	初診日	主訴
インプラント施術部位		埋入部位		歯の欠損様式 ( 該当するものに 印を )	
				単独・中間歯・遊離端・無歯顎・その他	
インプラント体埋入手術日		併用手術内容		埋入本数	手術時間
併用麻酔 ( 該当するものに 印を )				上部構造物種類	上部構造物装着日
Sedation ( IV or G )・General Anesthesia					
<b>症例の概要</b> 初診時の状況、検査内容、治療計画、手術記録及び経過、上部構造物、メンテナンス、経過、考察について記載する。					